

「カットブレイカーmini」による土壌改良工事

～水田転換畑における排水対策～

香取農業事務所改良普及課 令和5年5月16日発

基盤整備により、水田に客土して作られた畑ではネギ等の高収益品目が栽培されています。このような畑の一部では、施工時に客土が重機によって踏み固められてち密になり、排水性の低下や根張りの不良等が起きています。これにより、降雨後の作業の遅れや生産物の正品率低下がみられています。その対策として、千葉県内初となる全層心土破碎機「カットブレイカーmini」による心土破碎が香取市内の集落営農組織2件で行われました。

「カットブレイカーmini」は従来のサブソイラー等の排水対策用機械と比較して、砂質土や締まった土壌でも施工可能です。今回施工した20～30cm深までの硬度(抵抗)は、植物の根張りが可能とされる数値まで減少したことが確認されました(図)。

農業事務所では、施工後の土壌硬度等の変化を観察するとともに、排水性向上に向けた技術提案を続けることで、良品生産につなげていきます。



カットブレイカーmini 施工の様子

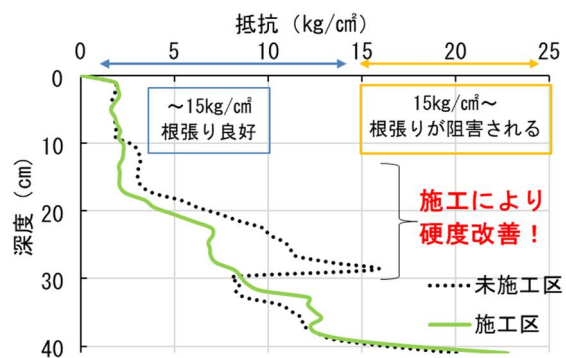


図 施工の有無による土壌硬度に及ぼす影響